

かいち ひろし
海地 博志(山口県山口市)

品種	作付面積 (応募面積)	単収 (玄米換算)	地域の単収との差(地域の平均単収) ※作況補正後の地域の平均単収
北陸193号、みなちから等	約1.8ha	787kg/10a	269kg/10a(518kg/10a)

【経営概況】

- 家族経営(本人と妻)、
農繁期には従業員を期間雇用
- 近隣農家(3経営体)の乾燥・調
製作業を受託

【作付品目】

- 主食用米:
ヒノヒカリ、恋の予感、中生新千本等 2.8ha
- 飼料用米(種子用を含む):
北陸193号、みなちから、試験品種等 5.1ha

【取組のきっかけ】

- 実需者の食の安全・安心へのこだわり、耕畜連携による持続可能な地域循環型農業のモデルづくりに共感するとともに、飼料用米取組による主食用米との作業分散や経営安定を期待して、平成22年産から本格的な飼料用米(当初は「モミロマン」)生産に取り組む。

【取組概要】

- 平成23年産から、より多収性で耐倒伏性に優れる「北陸193号」に変更。収穫時期が遅いことから、主食用米との作業分散や収穫等作業でのコンタミ防止が図られている。また、脱粒性が高いため、立毛乾燥を行わないことで裂果による脱粒を防止でき、株張りが良く草茎が固い部分を避け地上高30cmの部分を刈り取ることで収穫時のコンバイン負荷を軽減。
- 生産コスト低減を図るため、①疎植栽培(地域の慣行60株/坪から50株/坪へ)により資材費・労働力を低減、②耕畜連携の取組(実需者から鶏糞堆肥の無償供給を受ける)と、基肥・追肥での安価な単肥(硫安・尿素)使用により資材費を低減、③病虫害防除剤の苗箱散布、除草剤の移植時同時散布により労働力を低減、④実需者へフレコン出荷することで包装容器代・運搬経費を低減、⑤機械整備を自ら行うことで長期的な機械の使用による設備費低減の取組を実施。
- 実需者と実需者に出荷する他の飼料用米生産者が連携し、生育診断等を実施する現地圃場視察会等を行うことにより、生産者同士が切磋琢磨し、単収向上を目指している。

